

「第九」初演 200 周年記念 特別企画

L.v.Beethoven Symphonie Nr. 9



～ Program ～

J.S.バッハ作曲

ピアノ協奏曲第1番 二短調 BWV1052

L.v.ベートーヴェン作曲

交響曲第9番 二短調 作品125



ドイツの詩人、シラーが発表した「An die Freude（歓喜に寄す）」の詩に深く感銘したベートーヴェンは、この詩を題材に1815年に作曲を開始。9年の歳月を経て1824年5月7日にウィーンのケルトナートーア劇場で交響曲第9番として初演がされました。2024年は初演から200年の節目の年を迎えます。本コンサートは、「第九」初演から200周年を記念したコンサートとして、東京オペラシティ コンサートホール（タケミツメモリアル）にて開催します。



2024年

6月28日 金

19:00 開演 (18:30 開場)



指揮 黒岩 英臣

ピアノ 黒岩 悠 (Haruka Kuroiwa)
ソプラノ 大村 博美 (Hiromi Omura)
メゾ・ソプラノ 立川 かずさ (Kazusa Tachikawa)
テノール 澤武 紀行 (Noriyuki Sawabu)
バリトン 近藤 圭 (Kei Kondo)
管弦楽 東京フォルトウーナ管弦楽団
»コンサートマスター:相原 千興
合唱 「第九」特別記念合唱団
合唱指揮 下村 郁哉 (Ikuya Shimomura)

東京オペラシティ コンサートホール

チケット料金(全席指定) S席 6,000円 A席 5,000円 B席 4,000円

チケット取り扱い



下記QRコードから
お申込みいただけます



- イープラス eplus.jp (WEB/アプリ/ファミリーマート店舗)
- 一般社団法人 国際親善音楽交流協会 (右記ご参照)
- 東京オペラシティチケットセンター TEL.03-5353-9999



【主催 / お問い合わせ】

一般社団法人国際親善音楽交流協会
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-3-18-C-104
Tel.03-3406-3355 / Fax.03-3406-3356
info@igmea.com
<http://www.igmea.com/>



指揮：黒岩 英臣

1960年桐朋学園大学指揮科入学、故斎藤秀雄氏に師事。在学中は同大学オーケストラを指揮する他、ヴィオラ奏者としてNHK「朝のリサイタル」等に出演。ピアノ奏者としても活動した。同大学弦楽オーケストラのアメリカ公演に指揮者として同行。1965年同大学卒業後修士となり、10年間修道生活を送った。その間、神学、哲学、ラテン語、グレゴリオ聖歌、ポリフォニーを学び、典礼音楽の指揮、作曲を行う。札幌交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団をはじめ、全国の主要オーケストラとの共演も数多く行っており、各演奏会にて高い評価を得ている。自らが敬虔なキリスト教徒ということから、宗教音楽に造詣が深く、情熱的な音楽創りが評価されており、オラトリオ、レクイエム、ミサ曲等での名演を重ねている。2000年にはJ. S. バッハ没後250年を記念し東京オペラシティコンサートホールで「マイ受難曲」を指揮し、「強固な信心に裏打ちされた演奏には、胸を打つ何かひびいてくる」(音楽の友社)と称賛された。1981年から88年まで九州交響楽団常任指揮者、1985年から89年まで神奈川フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者、1988年から94年まで関西フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者を歴任。2001年から山形交響楽団常任指揮者を務め、現在に至るまで同団名誉指揮者を務めている。また、1978年より2016年まで桐朋学園大学にて教鞭を執り、多くの著名な指揮者を育て上げた。

オーケストラ：東京フォルトゥーナ管弦楽団

東京フォルトゥーナ管弦楽団は2007年より桐朋学園大学、東京藝術大学出身の優れた弦楽器奏者が中心となり結成。弦楽五部とチェンバロによるイタリアンバロックや弦楽六〜八重奏、室内管弦楽などをはじめ、大編成のシンフォニーまで様々な編成で定期演奏会や合唱団と共演、ソリストを迎えての活動を展開。著名な指揮者との共演も多数あり、絶大な支持と各方面からの高い評価を得ている。作品の正しい理解のもと、ハーモニーを感じた緻密なアンサンブルに自由で生き活きた音楽作りにより、多くのファンを持つ。



ピアノ：黒岩 悠

スイスのルガーノ音楽祭における「マルタ・アルゲリッチ・プロジェクト」、またドイツ・ベルリンフィルハーモニー・ガンマムジークザールに出演し、国際的な活動を開始。弘中孝、フランコ・スカラ、レオニード・マルガリウス、ボリス・ペトルシャンスキーらに師事した他、セルゲイ・パバヤン、イヴォ・ポゴリッチの教えを受けた。全日本学生音楽コンクール、大垣音楽祭などで賞を獲得。イタリア・マルサラ国際コンクール第3位、アンドラ公国アリア・デ・ラローチャ国際コンクールディプロマ賞を得た他、多数のコンクールで優勝、またバッハ特別賞受賞。日本各地でのリサイタルや、シチリアのパレルモ音楽祭、ドイツベルリンのピアノサロンクリストフォリにおけるリサイタルでは安定した評価を得ており、ドイツの紙面においては「鍵盤の王としてその必要とされる全てで魅了した」と激賞された。バッハの楽曲演奏に対してはアルゲリッチをはじめ、国際的なキャリアの場で高く評価されている。リサイタル活動のほか、ドイツブランデンブルク交響楽団、ブランデンブルク州立フランクフルト管弦楽団、ベルリンニューボイセンフィルハーモニー、イタリアロヴェレート室内楽団、セントラル愛知交響楽団らと共演、また室内楽奏者、教会オルガン奏者としても広く活動。AltusMusicよりCD、インスパイア to/from バッハ、レガシィを発売中。近年、東京音楽大学指導法特講に講義を行うなどピアノ教育にも大きな情熱を注ぎ、国内及び国際コンクールの審査員も務めている。



ソプラノ：大村 博美

東京藝術大学卒業、同大学院修了後イタリア留学中にベルヴェデーレ国際声楽コンクールオペラ部門(ウィーン)、ジャンフランコ・マズーニ オペラコンクール(イタリア)等の国際コンクールで入賞。その後拠点をフランスに移し、パリ国際声楽コンクール入賞、マルセイユ国際オペラコンクール優勝。欧米豪の歌劇場や音楽祭で、蝶々夫人をはじめ、「オテロ」のデズデモナ、「トロヴァトーレ」のレオノラ、「フィガロの結婚」の伯爵夫人、「トスカ」、難役として知られる「ノルマ」等、常にソプラノの主役で招かれて活躍。蝶々夫人役では、ベルリンドイツオペラ、シドニーオペラハウス、ブッチーニフェスティバルなど、16カ国の世界一流の歌劇場やフェスティバルに主演し絶賛された。日本では新国立劇場の「蝶々夫人」、「ドン・カルロ」のエリザベッタ等で大成功をおさめ、近年では東京二期会の蝶々夫人、トスカ、椿姫、演奏会形式の「ノルマ」などで喝采を浴びている。また、ロンドン交響楽団とセントポール大聖堂でブ람スの「ドイツレクイエム」のソロ、フランス国立管弦楽団とシャンゼリゼ劇場でメンデルスゾーンの「真夏の夜の夢」のソロを務め、コンサートの分野でも活躍している。二期会会員。



アルト：立川 かずさ

武蔵野音楽大学卒業。(財)日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第15期修了。ウィーンにてレッスンを受けコンサートに出演。1997年より新国立劇場合唱団メンバーとして活動を始め、他でもオペラソリストや宗教曲アルトソロとしても活躍。2007年藤原歌劇団「リゴレット」にて、チェラーノ伯爵夫人役にて同歌劇団デビュー。又、声楽指導や合唱指導にも定評があり、八ヶ岳音楽祭の合唱指導にも関わる。宗教曲ではバッハ「短調ミサ」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「戴冠ミサ」「レクイエム」、ヴィバルディ「グローリアミサ」、ロッシーニ「小ミサソレムニス」、ベートーヴェン「ミサソレムニス」「交響曲第9番」、ヴェルディ「レクイエム」等でソロ出演。オペラでは《魔笛》童子3、《アンドレアシェニエ》マデロン役、《蝶々夫人》スズキ役、《カルメン》タイトルロール・メルセデス役、《こもり》オルロフスキー役等に出演。ウィーンのムジークフェラインにてベートーヴェン「交響曲第9番」、ベルリンのベルリンフィルハーモニーホールにてヴェルディ「レクイエム」、習志野文化ホールにてマラー「復活」のアルトソロに出演。藤原歌劇団準団員、新国立劇場合唱メンバー。



テノール：澤武 紀行

桐朋学園大学音楽学部声楽専攻を首席で卒業。同大学研究科終了。国際ロータリー財団親善奨学生に抜擢され、オーストリア・ザルツブルグ・モーツァルト音楽院、ザルツブルグ大学人文学部音楽学専攻に留学、ブルックナー音楽院オペラ科卒業。モーツァルト作曲、歌劇「後宮からの逃走」の主役ベルモンテでオペラデビュー後、ベルリン国立歌劇場、ルーマニア国立歌劇場、ブラウンシュヴァイク国立歌劇場、リンツ州立歌劇場、メックレンブルク・フォアポンメルン州立劇場(専属歌手契約)等、世界各国で演奏活動を精力的に行なっている。「ヴォーカルアンサンブル SAKURA Berlin」音楽監督、富山福祉短期大学客員教授、富山県オペラ協会理事、二期会会員。現在、KNBラジオ番組「夢見るクラシック」のナビゲーターや富山銀行のオフィシャルパートナーを務める。



バリトン：近藤 圭

国立音楽大学大学院首席修了、新国立劇場オペラ研修所第9期修了。ローム ミュージック ファンデーション奨学金を得てドイツ・ハンブルクに留学。『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールでオペラデビュー。小澤征爾指揮『子どもと魔法』大時計役、新国立劇場『夏の夜の夢』デミトリウス役等、これまで演じた役は50を超える。中でも『魔笛』パバゲーノ役は当たり役とされ、新国立劇場、東京二期会、日生劇場等に出演し、新国立劇場で演じた様子は小学4年生の教科書にも掲載されている。2022年東京二期会『フィガロの結婚』フィガロ役したのをはじめ、新国立劇場において『魔笛』パバゲーノ役、同劇場『蝶々夫人』シャープレス役等で出演。その他、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ナハティガル役や、『ドン・ジョヴァンニ』マゼット役で出演する等、活躍を続けている。その他、『第九』『カルミナ・ブрана』、フォーレ、モーツァルト『レクイエム』などのソリストとしても活躍。東京二期会会員。



合唱指揮：下村 郁哉

鹿児島県出身。武蔵野音楽大学卒業 指揮法を黒岩英臣、ヘルムート・リリンク。管弦楽法を石丸寛。和声対位法を萩原英彦、田中均。声楽を足田生次郎。ピアノを渡辺規夫の各氏に師事。1987年プロ混声合唱団・東京カンマーコアに入団。指揮者としても活躍する。1991年新日本フィルと東京カンマーコアを指揮してデビュー。「音楽の友」「音楽芸術」他誌誌より「将来大きな期待を感じさせる指揮者」と評される。これまでに海外公演は、ウィーン(楽友協会ホール、コンチエルトハウス、国立歌劇場、シュテファン大聖堂)、ベルリンフィルハーモニーホール、ボン・ベートーヴェンハウス、チェコ・スメタナホール、マドリッド・サルスエラ劇場、フランス、スイス、ハンガリー、リトアニア、中国に及ぶ。ベートーヴェンと「第九」を長年に渡って研究しており、その裏付けられた解釈と指揮には全国にファンも多く「サントリー1万人の第九」「国技館すみだ5000人の第九」など、これまでに160以上の合唱団を指導、指揮している。佐渡裕、ジュゼッパ・サツパティエリなど国内外の著名な指揮者からの信頼も絶大である。新日本フィルはじめオーケストラとの共演も多く、フォーレのレクイエムなど名演も残している。現在、全国の合唱コンクールの審査員や合唱祭の講師を務める他、全国のアマチュアコーラスの育成にも力を注いでいる。中・高校生を対象とした講演「感動は人を大きく変える」は大きな反響を呼び、夢を持つことの素晴らしさや大切さを若い世代に伝えている。合唱団「郁の会」代表・音楽監督、日本ベートーヴェン協会第5代会長、ベートーヴェンの会(旧日本ベートーヴェン協会合唱団)会長、音楽監督。